

刈谷市 歴史の小径

れきしのこみち

小垣江 編



刈谷市歴史博物館
KARIYA city Museum of History

小垣江南①小垣江神明神社



① 小垣江神明神社

【おがきえしんめいじんじや】

天照大神をはじめとする多くの神を祀る小垣江の鎮守。応永6年(1399)に出雲大社から遣わされた柘植能成が祠官となり、その子孫が16代にわたってこの社に奉仕した。

祭礼には、おまん(駆馬)が奉納される。



小垣江神明神社

② 親子松

【おやかまつ】

天正5年(1577)西尾城修理のため、境内の松を伐採したところ、人びとが失明・失神する災いが起きた。驚いた城主が3000本もの松を植樹するも、そのほとんどが枯れたり、大風で倒れたりして、残った1本を「親子松」と呼んだという。



親子松

③ 金刀比羅社

【ことひらしゃ】

創建年代は不詳だが、天明6年(1786)に四国の金刀比羅宮に向き勧請したと伝わる。社殿は何度も天災に遭っており、祭礼時に奉納されていた山車の売却費用を社殿再建に充てている。

現在は売却された山車の1基が見つかり、地区で保管されている。



金刀比羅社

④ 清水土場

【しみずどば】

土場とは物資を積み出し・荷揚げする船着場のことで、江戸時代の清水土場からは米や瓦などが積み出され、瓦を焼く燃料となる木材や畑の肥料にする草木灰・干鰯などが荷揚げされた。明治以降も清水港と呼ばれ賑わったが、物資の輸送手段が時代とともに船から鉄道や自動車に移りかわるにつれ、使われなくなった。

⑤ 曙庵跡

【あけぼのあんあと】

曙庵は刈谷の俳人中島秋挙が住んだ庵の名前であり、秋挙のもう一つの号でもある。秋挙は安永2年(1773)刈谷藩士中島左守の長男として生まれた。享和2年(1802)致仕し、自ら薙髪して曙庵と号し、名古屋の井上士郎の門人となった。文政9年(1826)に53歳で没した。「曙庵跡」の碑は平成6年(1994)の建立である。秋挙ゆかりの句碑は司町の市原稻荷神社境内にある。

⑥ 法栄寺

【ほうえいじ】

創建は不詳であるが、寛延元年(1748)誓満寺第6世誓誉上人が、当地に堂宇を建立し、法栄寺として中興する。9世・10世住職(明治時代)の墓石に「筆子中」と刻まれており、当時この寺で寺子屋が開かれていたと思われる。



法栄寺

刈谷市 全域マップ



QRコードをお読みいただくと、刈谷の地図と周辺の史跡が表示されます。

※QRコードはスマートフォンでの登録が必要です

小垣江 おがきえ

猿渡川の左岸に位置する。数百年前は入江となっていて西の半島状の台地の形から「かもめ島」「尾がきえ」と呼んだという。近世までこの洪積台地の縁が海岸線となっていた。出郷の犬ヶ坪は幕末頃に分村したが、明治11年(1878)には再び当村に合併している。近代は、同13年の明治用水西井筋の竣工により農地の開拓が進んだ地域である。

刈谷市歴史博物館
〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1
TEL:0566-63-6100 FAX:0566-63-6108
http://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/



小垣江北 散策ルート



1 巡見橋 【じゅんけんばし】

江戸幕府は地方の実情を調べるために、何度か各地へ巡見使を派遣した。巡見使の一行は、小垣江村から猿渡川にかかる橋を渡り、刈谷藩の代官などの出迎えを受けて元刈谷村へ入って来たので、この橋は巡見橋と呼ばれるようになったといわれる。

2 北浦・半崎土場

【きたうら・はんざきどぼ】

土場とは、船着場として利用されていた場所のこと。

この近辺は江戸時代には土場として栄え、年貢米などの積み出しや、伊勢参りの船で賑わっていた。常夜灯は文政7年(1824)のもので、もとは北の方にあったが、道路改修により現在地へ移された。



常夜灯

3 渡し場 【わたしば】

ここに渡し場があったとされる。猿渡川を越えて、元刈谷村の楞巖寺や崇福寺へ渡し船が出ていたと伝えられている。

4 超円寺 【ちょうえんじ】

創建は不詳である。当初は天台宗であったが、達賢法師により元禄期(1688～1704)頃中興された際、浄土真宗に改宗する。



超円寺

5 地蔵 【じそう】

超円寺入口の地蔵は、安永8年(1779)疫病により多くの死者が出たため、この地蔵を安置し祈ったところ収まったと伝わる。

6 観音寺 【かんのんじ】

草創は室町時代とされる。寛永10年(1633)楞巖寺22世が中興したといわれる。江戸時代、神明宮とあわせて当寺に雨乞願が多く出されている。馬頭観世音菩薩を本尊とする。



観音寺

7 専称寺 【せんしょうじ】

応永7年(1374)、伊勢一身田真宗高田派として開かれ、寛文元年(1661)浄土宗に改宗した。寛政2年(1790)、一揆の発端ともなった寺参会が野田の昌福寺とともに当寺で開かれた。本尊の阿弥陀如来立像は恵心僧都の作と伝わる。



専称寺

8 秋葉神社貝塚 【あきばじんじゃかいづか】

文政9年(1826)創建とされる秋葉神社の周辺に広がる貝塚で、前川右岸の台地縁辺に立地する。マガキやハイガイを主とする貝層からは平安時代の灰釉陶器や鎌倉時代の山茶碗が出土している。とくに平安時代の製塩土器が多く出土しており、当時は貝塚の前面まで衣ヶ浦が入り込み、海水から塩を作っていたことを物語る。



秋葉神社貝塚

9 誓満寺 【せいまんじ】

永正期(1504～1520)頃に真宗高田派の法栄寺として創立され、承応元年(1652)尾張建中寺の末寺となり、浄土宗に改宗し誓満寺と改めた。

昭和20年(1945)、三河地震により本堂は全壊するが、本尊の阿弥陀如来は奇跡的に無事であった。



誓満寺

10 紫雲寺 【しうんじ】

浄土宗の寺院である。高須村出身の女性むらが専称寺で剃髪し紫雲尼を名乗り、寛保3年(1743)1宇を建立した。その名から紫雲庵と称した。宝暦13年(1763)現在の地に移り、明治13年(1880)に紫雲寺と改める。



紫雲寺